

夏秋キャベツ

担当者 技能研究員 太田和成

試験課題名	夏秋品種系統選定試験
目的	夏どりキャベツの地域に適応する品種系統の選定をするために比較検討し普及に資する
期待される成果	優良品種の導入により、生産の安定と経済性の向上を図る
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所 JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会キャベツ部会

1 供試品種・資材

品種

※ 藍春ゴール (日本農林) Y R 初陣 (中原採種場) 涼 波 (ホクレン)
北ひかり (タキイ) 味 球 (渡辺農事) きよらか (渡辺農事)
※基準品種

2 耕種概要

土 質 ~ 灰色低地土 (埴壤土)

前 作 ~ 長ネギ

播 種 日 ~ 5月28日 定 植 日 ~ 6月23日 収 穫 日 ~ 9月7日

栽 植 密 度 ~ 畦幅60cm × 株間40cm 4,166株/10a当たり

3 土壌診断結果と施肥量

(1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	CaO	熱水抽出N
5.50	0.055	51.3	27.9	104.1	604.9	9.5

(2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

堆 肥 ~ 2,000kg

(3) 施肥内容 (成分量/%)

基 肥 ~ 硫酸アンモニア (21 - 0 - 0) 6月22日 全層施肥
基 肥 ~ 粒状過燐酸石灰 (0 - 18 - 0) 6月22日 全層施肥
基 肥 ~ 硫 酸 加 里 (0 - 0 - 50) 6月22日 全層施肥
分 肥 ~ 硫酸アンモニア (21 - 0 - 0) 7月22日 側条施肥
分 肥 ~ 硫 酸 加 里 (0 - 0 - 50) 7月22日 側条施肥

(4) 肥料の要素量

(kg/10a)

			N	P	K
基 肥	硫酸アンモニア	57kg	12.0	-	-
基 肥	粒状過燐酸石灰	29.4kg	-	5.0	-
基 肥	硫 酸 加 里	24kg	-	-	12.0
分 肥	硫酸アンモニア	19kg	4.0	-	-
分 肥	硫 酸 加 里	12kg	-	-	6.0
合 計			16.0	5.0	18.0

4 調査項目

生 育 調 査 ~ 播種日・発芽期・発芽率・定植日・定植時の苗質・結球期・収穫期
・生育日数

収 量 調 査 ~ 総重量・調整重・調整率・調整収量・慣行比・規格別割合・障害球

特 性 調 査 ~ 球形指数・外観 (球形・しまり・色) ・食味 (硬さ・食感) ・糖度 (Brix)

5 生育調査

項目		品種					
		藍春 ゴールド	YR初陣	涼波	北ひかり	味球	きよらか
播 種 日		5月28日					
発 芽 期		6月2日	6月2日	6月2日	6月2日	6月2日	6月2日
発 芽 率 (%)		100	99.2	98.4	97.7	99.2	91.4
定 植 日		6月23日					
定植時の苗質	葉数(枚)	2.4	3.1	3.1	2.9	3.0	3.0
	葉長(cm)	4.1	4.2	4.7	5.1	4.3	4.9
結 球 期		7月26日	7月28日	7月27日	7月30日	7月26日	7月30日
収 穫 期		9月7日					
生 育 日 数		102日					

6 収量調査

項目		品種					
		藍春 ゴールド	YR初陣	涼波	北ひかり	味球	きよらか
総重量(kg/球)		2.1	2.5	2	2.2	2.4	2.3
調整重(kg/球)		1.6	1.7	1.4	1.4	1.6	1.7
調整率 (%)		73.6	66.9	70.3	64.1	65.8	75.2
調整収量 (kg/10a)		6,503	7,007	5,899	5,782	6,595	7,274
慣行比 (%)		100	107.6	90.7	88.9	101.4	111.9
規格別割合 (%)	6玉以上	40	70	20	20	40	80
	7～8玉	50	30	40	50	60	20
	9玉以下	10	0	40	30	0	0
障害球	生理障害(無0～4多)	0	0	0	0	0	0
	裂 球(無0～4多)	1	0	0	1	0	1
	病 害 虫(無0～4多)	1	1	0	0	1	1

※規格 6玉 1.6kg以上 7～8玉 1.3～1.6kg未満
9～10玉 1.0～1.3kg未満

7 特性調査

項目		品種					
		藍春 ゴールド	YR初陣	涼波	北ひかり	味球	きよらか
球形指数 (%)		72.4	67.6	87.6	64.7	66	67.8
外 観 ・ 食 味	球 形 (良5～1不良)	3	3	4	3	3	3
	しまり (良5～1不良)	3	2	5	2	2	3
	色 (良5～1不良)	3	4	3	2	4	3
	硬 さ (良5～1不良)	3.0	3.0	2.9	3.4	3.3	3.0
	食 味 (良5～1不良)	3.0	3.0	2.8	3.0	2.9	2.6
糖度(Brix)		5.7	5.4	5.1	5.4	5.6	5.2

8 防除歴

殺 虫 剤			殺 菌 剤	
6月23日	オンコルマイクロカプセル	100倍		
7月9日	オルトラン水和剤	1,000倍		
7月20日	アフーム乳剤	2,000倍		
7月27日	オルトラン水和剤	1,000倍	7月27日	スターナ水和剤 1,000倍
8月13日	オルトラン水和剤	1,000倍		
8月25日	アディオオン乳剤	2,000倍		
8月31日	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍		

9 試験結果概要

(1) 生育経過

5月28日に、128穴セル成型トレーにプラグエースを充填し播種を行った。発芽期は、全品種揃って6月2日となった。発芽率は藍春ゴールドが100%で最も高く、最も低かったのが きよらかの 91.4%となった。発芽率は全品種 90%以上で良好であった。

定植時の苗質調査では、葉数が2.4枚～3.1枚、葉長が4.1cm～5.1cmと多少の差はあったが全品種、平均的に生育し、6月23日に定植を行った。

結球期は藍春ゴールド、味球が7月26日と最も早く、つづいて涼波が7月27日、YR初陣が7月28日、北ひかり、きよらかが7月30日となった。

(2) 収量・特性調査

収穫は9月7日に行い、生育日数は102日となった。球当たり調整重は、きよらかが1.7kgで最も重かった。最も軽かったのは、北ひかりの1.4kgという結果になった。

調整後の規格別割合は、6球以上のサイズで藍春ゴールドが40%、YR初陣が70%、味球が40%、きよらかが80%であったのに対し、涼波、北ひかりは20%で、9球以下が30%～40%で小球傾向であった。

外観・食味は、藍春ゴールドを基準の3（良5～1不良）として、涼波が球形で5、しまり5となった。色は、YR初陣、味球が4となった。食味は、基準を上回る品種はなかった。

糖度は、藍春ゴールドが最も高く5.7度となった。最も低かったのは、涼波の5.1度という調査結果となった。

(3) 考察

きよらかは、基準品種より収量が上回り、外観・食味でも同程度の評価であった。しかし、病害が多少発生したため、適期防除を行う必要があると考えられる。

今年度は、播種時期が早くなっているが、平成20年度と収量を比較しても同程度であった。しかし、病害虫は多くなると考えられる。そのため、暑さや病害に強い品種を含めて検討したい。また、食味で大差がなかったため、食味の優れた品種も検討したい。